

2017 年度

# 環境活動レポート



発行日：2018年06月26日



目次

1 組織の概要 ..... P.1  
 2 対象範囲 ..... P.1  
 3 環境方針 ..... P.2  
 4 環境管理実施体制 ..... P.2  
 5 環境目標 ..... P.3  
 6 環境活動計画 ..... P.3  
 7 環境目標の実績 ..... P.4  
 8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組 ..... P.6  
 9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 ..... P.7  
 10 代表者による全体評価と見直しの結果 ..... P.7  
 11 その他環境活動報告（2017年度） ..... P.8



1 組織の概要

**事業所名及び代表者名** 太陽油脂株式会社  
 代表取締役社長 中山 悟  
**所在地** 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7  
**環境管理責任者及び担当者連絡先** 環境管理責任者：生産技術部長 金井 一徳  
 TEL:045-441-4962 FAX:045-441-9671



**事業の概要**  
 ①事業内容 加工油脂部門：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売  
 石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石鹸、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売  
 ②事業規模 生産量：66,979 t/年  
 従業員数：254人（2018/4現在）  
 床面積：14,638.46㎡

2 対象範囲(EA21)

**認証・登録範囲** 加工油脂部門：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売  
 石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石鹸、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

**レポートの対象期間及び発行日** 対象期間：2017年04月01日～2018年03月31日  
 発行日：2018年06月26日



3 環境方針

A-KE002-03-0  
 改訂日 2016年 2月 25日

## 環境方針

太陽油脂は、「誠実をもち、確かな技術とつくり精神に裏付けられた、人と、地球に優しい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献します」と掲げた企業理念の下に、以下の環境方針を定めます。

- 環境、社会との共生に視点をいたした企業活動
  - 太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
  - 太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。
- 人と環境に優しい製品の提供
  - 太陽油脂は、「人と、地球に優しい」に拘った食用油脂製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境に優しい生活」をも提供していきます。
  - 太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を推進していきます。
  - 太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境方針の全従業員への周知徹底を行い、全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推進していきます。

2017年 7月24日  
 太陽油脂株式会社  
 代表取締役社長  
 中山 悟

「太陽の恵み、人にやさしく地球にやさしく」の当社理念のもと、おかげさまで、創立70周年を迎えました。先輩の築かれた歴史と英知に創意工夫を加え更なる社業発展に努めて参ります。

※環境レポート最終頁に70年の歩みを紹介いたします。各事業に強化ポイントを設定し、環境活動の元となる環境方針を掲げます。

4 環境管理実施体制



実施体制役割説明

**代表者（社長）**：環境経営システムの構築・運用に必要な経営資源を準備する  
 環境経営に関する、基本理念、長期戦略及び基本方針等に基づき、環境方針を定める  
 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営システムの見直しを行う  
**環境管理責任者**：環境負荷と環境への取組状況の把握と評価を行い、結果を社長に報告する  
 環境関連法規等の取りまとめを行い、結果を社長に報告する  
 環境目標及び環境活動計画の策定を行い、社長の承認を得る  
 各部門（部署）の「環境活動計画・実施状況・評価表」を承認し、活動の推進を図る  
**EA21事務局**：環境管理責任者を補佐し、全社環境関連データの集計及び管理保管を行う  
 ユーティリティ削減チーム：ユーティリティ関係の全社活動目標設定と削減活動の進捗管理を行う  
 > 二酸化炭素排出量削減：（電気使用量・ガス使用量・蒸気使用量）、  
 並びに、総排水量削減：（上水使用量・工水使用量、雨水対策）  
**廃棄物削減チーム**：廃棄物関係の全社活動目標設定、削減活動計画立案及び進捗管理を行う

**グリーン購入推進チーム**：グリーン購入推進および製品及びサービスにおける環境配慮の推進  
 に関する全社活動目標設定、推進活動計画立案及び進捗管理を行う  
**各部門長**：部門（部署）の環境経営システムの構築・運用の責任者としてその任に当たる  
 部門（部署）の従事者に対して、環境経営システムに関する教育・訓練を行う  
 自部門（部署）の「環境活動計画・実施状況・評価表」を作成し、推進する  
**推進委員**：部門（部署）長を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務局として  
 事務手続き等の実務を遂行する  
**全従業員**：部門（部署）の推進委員を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務手続き等の  
 実務を遂行する  
 部門（部署）の環境経営システムを理解し食品リサイクル及び環境問題を継続的に改善する  
 活動を行う

## 5 環境目標

2013年度～2016年度までの実績を踏まえ、2017年度～2019年度の環境目標及び中期環境目標は以下の通りです。  
(尚、2016年度～2019年度の二酸化炭素排出係数(東電)は0.491(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用)

(年度:4月～3月 以下同じ)

製品生産量当たり	基準年度実績 2016年度	基準年度比 2017年度目標	基準年度比 2018年度目標	基準年度比 2019年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /t)	238.21	99.00%	98.50%	96.00%
廃棄物排出量 (t/t)	0.0350	98.00%	97.50%	97.00%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.0255	99.00%	98.50%	98.00%
食品リサイクル リサイクル率(%)	97.37%	97.00%	97.00%	97.00%
排水量 (m <sup>3</sup> /t)	3.83	86.29%	81.10%	72.80%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0502	99.00%	98.00%	97.00%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具の グリーン購入実施率)	(29.7%)	現状調査	2017年+3%	2017年+5%
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	84%	75%	75%	75%
地域とのコミュニケーション (石鹸学習会など)	(77回/年) 回数から参加人数に変更	2000人/年	2100人/年	2200人/年

## 6 環境活動計画(2017年度)

活動項目	取り組み内容
二酸化炭素排出量削減 <東電:排出係数> 0.491kg-CO <sub>2</sub> /kWh 2016年度比 (99.0%)	電気使用量 原単位削減 2016年度比:99.00%  都市ガス使用量 原単位削減 2016年度比:98.7%  ①事務所用蛍光灯及び屋外灯の更新時にLED照明を積極的に導入。 ②全社節電対策(昼休み部分消灯等)6月～10月。クールビズの実施。 ③空調の温度管理を徹底する。 夏(6月～9月)27～28℃設定 冬(12月～3月)20～22℃設定
廃棄物総排出量削減 2016年度比 (98.0%)	①回収率を上げ給水温度を上げる。 ②蒸気漏れによる熱エネルギーロスの低減。 ③加熱温度低減による蒸気使用量削減。 ④ドラム溶解蒸気削減  ①紙の使用量削減(縮小コピーや両面コピー実施、FAXのメール送信化) ②マイタオルの使用を推進する。(ペーパータオル使用量削減) ③一般廃棄物の分別徹底で単純焼却ごみを削減する。
食品廃棄物発生抑制 2016年度比 (99.0%)	①加工温度の過剰上昇抑制 ②賞味期限切れ製品を削減する。(無駄のない生産計画) ③小集団活動取組みにて不適合品を削減する。(廃油、廃脂肪酸量削減)  ①品目を選定し投入白土量を推進 ②小集団活動取組みにて廃白土量を削減する。 ③小集団活動取組みにて不適合品を削減する。(廃油、廃脂肪酸量削減)
食品リサイクル率 (97%以上)	①再資源化率を監視し、食品リサイクル率97%以上を継続維持する。
総排水量削減 2016年度比 (86.29%)	①水道栓の交換(ワンタッチ式へ変更) ②冷却水の有効利用(再利用) ③手洗い設備の自動化(バッテリー式) ④洗浄方法の見直しや洗浄水の適正使用により水使用量を削減する ⑤冷却水の循環利用
化学物質使用量削減	①使用量適正管理により2016年度使用量原単位比:99.0%以下にする。
グリーン購入推進	①グリーン購入対象品を選定し管理する。(職服、事務用品、文具を対象) ②部署は選定リストを元に備品購入を実施する
環境配慮設計	石けん化粧品事業 ①PRTR法に指定された第一種合成化学物質を使用せず石鹸をベースにした商品開発 ②RSPOロゴマークを表示したシャンプー、リンス等の販売
地域とのコミュニケーション	①工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会を開催する。 ②地域清掃活動の継続実施(本社工場～入江橋周辺)

## 7 環境目標の実績

### ① 二酸化炭素排出量原単位: Kg-CO<sub>2</sub> / t

(2016年度:238.21)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%)	—	99.0	98.5	96.0
年度実績(%) : 2016比	—	95.5	—	—
評価	基準	○	—	—

### ② 総廃棄物量原単位: t / t

(2016年度:0.0350)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%)	—	98.0	97.5	97.0
年度実績(%) : 2016比	—	101.5	—	—
評価	基準	未達成	—	—

### ③ 食品廃棄物発生量原単位: t / t

(2016年度:0.0255)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%)	—	99.0	98.5	98.0
年度実績(%) : 2016比	—	99.9	—	—
評価	基準	未達成	—	—

### ④ 食品リサイクル率(%)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%)	—	97.0	97.0	97.0
年度実績(%)	97.37	97.1	—	—
評価	基準	○	—	—

### ⑤ 総排水量原単位: m<sup>3</sup> / t

(2016年度:3.83)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%)	—	86.29	81.10	72.80
年度実績(%)	—	91.8	—	—
評価	基準	未達成	—	—

⑥ 化学物質使用量原単位：kg/t

(2016年度：0.0502)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	99.00	98.00	97.00
年度実績 (%)	—	97.56	—	—
評価	基準	○	—	—

⑦ グリーン購入実施率 (%) (作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	現状調査	94.47 (+3)	96.47 (+5)
年度実績 (%)	—	91.47	—	—
評価	—	○	—	—

⑧ 環境配慮設計 (石けん化粧品事業)：品/品・年

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	75.0	75.0	75.0
年度実績 (%)	84.0	100.0	—	—
評価	基準	○	—	—

⑨ 地域とのコミュニケーション (石けん学習会など)：人/年

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (人/年)	—	2,000人	2,100人	2,200人
年度実績 (人/年)	—	1,542人	—	—
評価	—	未達成	—	—



⑧ 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組

環境活動計画		取組結果とその評価・<次年度の取組>	
二酸化炭素排出量削減 <東電：排出係数> 0.491kg-CO2/kWh 目標 2016年度比：99.0%	電気使用量 原単位削減 2016年度比：99.0%	目標 (2016年度比：99.0%) ⇒結果 (96.6%) (2017年度評価：○)  <次年度取組> ①消灯クールビズなど無駄な電気使用削減の取組を継続実施する。 ②小集団活動取組にて不適合発生を削減する事で無駄なエネルギー使用を削減する。 ③ロス削減を削減する製造方案の導入 (収率UP：4D x 活動を通じて)。	
	結果 2016年度比 (95.5%) (評価：○)	都市ガス使用量 原単位削減 2017年度比：99.0% (旧2016年度比：98.7%)	目標 (2016年度比：98.7%) ⇒結果 (94.0%) (2017年度評価：○)  <次年度取組> ①作業改善・加熱温度低減により蒸気の使用量を削減する。 ②不適合発生を削減し、造りなおし等の無駄なエネルギー使用を削減する。 ③蒸気の改質による省エネの実施。
廃棄物排出量削減 目標：2016年度比 (98.0%)	一般廃棄物排出量 原単位削減 2016年度原単位 比：99.5%以下	目標 (2016年度比：99.5%) ⇒結果 (100.0%) (2017年度評価：△)  <次年度取組> ①ごみの分別徹底と廃棄されているごみのリサイクル化を推進する (秤設置)。 ②マイ箸の推進や弁当容器などの廃棄物減の推奨。	
	結果 (101.5%) (評価：未達成)	廃白土量削減 2016年度比：44t減	目標 (2016年度比：44t減) ⇒結果 (+104.37t) (2017年度評価：△)  <次年度取組> ①廃白土原単位削減取組み実施。
食品廃棄物 発生抑制 目標：2016年度比 (99.0%)	食品廃棄物 発生量削減 2016年度比：99.0%	目標 (2016年度比：99.0%) ⇒結果 (99.9%) (2017年度評価：△)  <次年度取組> ①小集団活動取組を継続実施し食品廃棄物を削減する。	
	結果 (99.9%) (評価：未達成)	食品リサイクル率 97.00%以上	目標 (98.00%) ⇒結果 (97.1%) (2017年度評価：△)  <次年度取組> ①再資源化率の監視活動を継続実施する。
総排水量削減 目標：2016年度比 (86.29%)	水使用量 原単位削減 2016年度比：90.87%	目標 (2016年度比：86.29%) ⇒結果 (91.8%) (2017年度評価：△)  <次年度取組> ①冷却水を計画的に循環方式に変更する。	
化学物質使用量削減 (評価：○)	化学物質使用量原単位 2016年度 比：99.0%以下	目標 (2016年度比：99.0%) ⇒結果 (97.56%) (2017年度評価：○)  <次年度取組> ①使用量適正管理を継続実施する。	
グリーン購入推進 (評価：○)	グリーン購入 実施率推進 (2017年度は現状把握)	目標 (現状把握) ⇒結果 (91.47%) (2017年度評価：○)  <次年度取組> ①グリーン購入対象品をリスト化 (明確化) すると共に運用手順書を周知する。 ②グリーン購入実施率の計算方法を金額ベースに変更。初年度+3% UPさせる。	
環境配慮設計 (評価：○)	環境配慮設計 (75%以上) 石けん化粧品事業	目標 (75%以上) ⇒結果 (100%) (2017年度評価：○)  <次年度取組> ①更に環境配慮要素を追加した製品化率75%以上を維持する。	
地域とのコミュニケーション (評価：未達成)	地域との コミュニケーション (2,000人/年)	目標 (2,000人/年) ⇒結果 (1,542人/年) (2017年度評価：△)  <次年度取組> ①工場見学会、手作り石けん教室の参加人数で継続集計。 ②本社工場周辺の清掃活動を継続実施する。	

1) 主要な取り組みの総括評価

各部門ごとに年次計画のテーマがあるが、エコアクション21の環境活動と別扱いにしてきた傾向がある。コストダウンにつながるユーティリティ削減活動は進んだが、廃棄物削減 (分別) は運用改善が下期になってしまった。今後は、年次計画と環境活動のつながりを表現し、推進委員を通じて全従業員の意識向上としていきます。

また部門部署の活動内容は、削減3チームと連携させて目標達成につなげたいと思います。

・年次計画とのつながりとして (例)

全社・・・仕事効率の向上 (変動給減) は省エネに貢献、在庫の適正管理は不適合発生を削減になる。

工場系・・・製品の収率向上やロス削減、時短対策は、原単位改善・廃棄物削減になる。

事務系・・・電子情報を使った情報伝達で印刷物の減と仕事効率の向上になる。

## 9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 1) 適用法令等の順守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者（同代理者）選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、ガスタービン、悪臭	「ばい煙発生施設（使用、変更）届出書」排煙（Noxの許容限度）の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回Nox測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法	排水処理設備	「特定施設設置（使用、変更）届出書」、「特定施設使用等開始報告書」排水規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対策	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場立地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書	○
	指定可燃物（タンク）	年2回の消防用設備定期点検。	
	少量危険物（薬品庫）	「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、スロープ等	「整備基準適合証」	○
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附置義務駐車施設（設置、変更）届出書」	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサ	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書（保管事業者用）」	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（規則）	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検（1回/3ヶ月以上）・有資格者による定期点検（7.5kw以上）	○
省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）	全社	CO <sub>2</sub> 換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告（省エネ法定期報告で代用）	○
温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律）	全社	「エネルギー管理統括者／エネルギー管理企画推進者選任届出書」、 「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」（1%以上/年平均のエネルギー消費原単位低減努力）	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」（（財）日本容器包装リサイクル協会）	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断（特殊検診含む）、有機溶剤中毒予防規則の遵守・・・問題なし	○

### 2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。  
また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去、3年間ありませんでした。



エコアクション21  
認証・登録番号 0003575

## 10 代表者による全体評価と見直しの結果

計画通り進められた取組は、成果につながっており評価します。課題の多い目標もあるので、達成するための努力・苦労があると思いますが、個の活動から組織の活動に抜け、そこから生まれる知恵と工夫を以って、目標達成につなげてください。

関連法規を遵守するCSR活動は当然のこと、現在はESG（環境・社会・統治）の観点が必要です。収益と環境活動をリンクさせ、エコアクション21の活動を高めてください。

中期計画からなる年次の実行計画は、品質面・環境面いづれにおいても顧客満足につながるものです。目標として数値設定したものを確実に達成することは、エコアクション21の活動結果の評価向上に反映されるものと改めて理解するように。

エネルギーや廃棄物の削減は、地球環境保全に重要な活動です。2017年度で達成したことに満足せず、2018年度においても新たな取組を設置し、シナリオを立てて進めていくこと。特に工場の製造効率の向上は、製造・開発・品質保証・営業と、複数組織が融合・協働することで、新たなアイデアが生まれます。これを意識して取り組んでください。

また、環境活動の進捗状況に対する評価者指示は、各部署の部会・ミーティングなどで取り上げ、全従業員に周知できていることを明確にするよう仕組みを作ってください。品質・環境に貢献する会社として、創業100周年を迎えましょう。

## 11 その他環境活動報告(2017年度)

### ◎環境配慮設計商品の開発発売

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境に配慮し、肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。太陽油脂石けん・化粧品開発部では、環境にやさしい石けん製品を毎年開発しております。

本年度では2013年度に新発売した当社初めてのオーガニックスキンケアシリーズ「素肌レシピシリーズ」をリニューアルし、『素肌レシピEXシリーズ』を発売しました。このシリーズでは一部商品をリニューアルし、新たに『素肌レシピアルガノソープEX』と『素肌レシピオイルインジェルクレンジングEX』を発売しました。

本年度に開発した商品は、全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては『エコサート認証』と『JONA認証準会員』を製造工場と一部製品で更新して取得を続けております。

#### 環境配慮設計の基準

- PRTR指定物質、医薬部外品の表示指定成分の有害性の指摘のある合成化学物質は使用せず、石けんなどの生分解性の良い原料を使用する。
- 商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造する。
- 段ボールなどリサイクルできる素材を採用し、廃棄時に有害物質を排出するプラスチック素材は使用しない。

### 環境配慮商品 2017年度新製品

#### ●素肌レシピシリーズ リニューアル&新製品発売



素肌レシピ  
全種リニューアル（2017年4月）



素肌レシピ  
アルガノソープEX（新規ラインアップ）



素肌レシピ  
オイルインジェルクレンジングEX（新規ラインアップ）

## ◎RSPO普及活動

太陽油脂は、2011年にRSPOの正会員（日本11社目）となり、現在に至るまで、RSPOの認証原料の購入と、その重要性をアピールしてきました。

（2017/4月：正会員・準会員・賛助会員の計、世界3,379社、日本57社）

RSPOの認知度が高まるに従いお客様からの問い合わせが増えてます。これらの対応含め、各所で説明会を開催しています。今後もRSPOの重要性を踏まえ、企業理念の人と地球にやさしい製品を提供していきます。（RSPO更新審査：2017/9、継続中）

説明会開催・・・19件/年（対象：企業、消費者、学生）

太陽油脂の進捗状況はwww.rspo.orgを参照ください（英文サイト）。  
（太陽油脂情報は、  
https://www.rspo.org/members/779/Taiyo-Yushi-Corpにて）



包材にプリント



## ◎環境活動のアピール

2017年3月25日に開催された「Earth Hour 2017 in Yokohama」に当社も参加しました。（2018年も実施）これをきっかけに、横浜市の温暖化対策統括本部の関連から問い合わせがあり、横浜市が持つFMヨコハマのコーナーで環境の取組の一例として紹介する機会が得られました。会社の概要、環境への取り組みやエコアクション21認証取得の経緯とその活動、工場設備面での環境配慮とRSPO加入の経緯、環境レポート公開の反響、今後の展開など、太陽油脂の環境活動をアピールすることが出来ました。

- ・番組名 「E～ne! ～good for you～」
- ・コーナー名 「YES! For You」
- （環境未来都市・横浜から「素敵な生活」を実現するためのヒントを発信、多彩なゲストを迎えるコーナー）
- ・放送日 2017年8月14日（月）、21日（月） 14時31分～36分

### 出演者コメント

初めてラジオ局の収録ブースに入り、とても緊張しましたが、パーソナリティーのMITSUMIさんが、当社の商品を使っていたことや、その製造工場が横浜にあることに驚いていたことで、少し気がまぎれ楽になりました。

このコーナーには、これまででも多くの企業が出演しており、環境への取組み、人と地球にやさしい活動は、今後も、広く強く進めなければと感じました。



▲MITSUMIさんと出演記念撮影

## ◎地域への貢献

### ●石けん講座、工場見学会

従来は、消費者団体様や生協などの団体様向けに、石けんに関する勉強会を行ってきました。さらに、多くの方に石けんの良さについて知っていただきたく、2015年度よりホームページ上で毎月2回、一般の方向けの勉強会の設定も進めてきました。

地域住民・学校・環境団体・NPO団体様の申し込みを受け、石けん講座、手づくり石けん教室、工場見学会を、2016年度は合計77回、2017年度は83回実施しました。環境計画では参加者人数を2,000人で目標設定しておりましたが、2017年度は1,542人という結果でした。2018年度は新しい趣向を用意し、活動を継続していきます。

### 〈内容〉

- ① 植物油（オリーブ油、パーム油など）を使用し、5分でできるペットボトル石けん作り（小さい子供向けには石けんチップを使った、手ごねの石けん作りを体験）
- ② 合成界面活性剤などの合成化学物質、PRTR法での第1種指定化学物質を使わないシンプルライフ、石けん生活の提案
- ③ 実験による石けんの性質の確認（汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ）
- ④ 製品を身近に感じることが出来る石けん工場の見学

### 〈対象(参加団体)〉

- ・生協（パルシステム生活協同組合連合会、コープ自然派事業連合、ナチュラルコープ横浜、なのはな生協、グリーンコープ連合など）
- ・行政・学校（子安小学校、神奈川小学校など）
- ・共同購入・店舗（太陽サービス、大地を守る会など）
- ・一般団体（NPO法人、消費者団体など）
- ・一般消費者（個人参加）

### 〈石けん教室の様子〉



※地域の小学校の総合学習の一環として、「石けん教室」を開催しています。身近にある石けんを自分たちの手で実際に作ることで、子供たちが、楽しみながら環境についての学習ができたのではと思っています。これらの取り組み内容については、「泡エコ通信」にして希望者に年3回、計9万部配布しています。

●地域清掃

地域貢献活動として、太陽油脂株式会社から国道までの道路周辺を毎週、清掃活動しております。2016年度は49回、2017年度は47回の清掃を実施しました（雨天中止）。



↑ 清掃活動の風景



●町内会への協力

毎年夏に行われる町内会イベントへ、「パックスナチュロンキッチンスポンジ」と、「パックスナチュロンクリームソーブ（固形石けん）」それぞれ2ケースを協賛しました。

また、町内会イベント（主にお祭りの準備・運営・後片付け）に参加し、地域への協力を行いました。

◎後述

創立70周年を迎えて...

太陽油脂の名で社業をはじめ、2017年3月31日に創立70周年を迎えました。また、この地に立っての事業の歴史を振り返ると、2019年には創業100周年となる企業でございます。多くのお取引先様、消費者の皆様を支えられ今日まで事業活動を続けられますことを心より感謝申し上げます。

「太陽の恵み、人にやさしく地球にやさしく」が当社の理念です。先輩が築かれた歴史と英知に創意工夫を加え更なる社業発展に努めて参ります。

今後も、「本物を追求する」・「自然と共存する」ということに拘り、持続可能な発展に向けた企業活動を継続して参ります。そして世の中から選んでいただける価値を提供し続けて参ります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



創会社沿革

- 1919年（大正8年）、東京搾油株式会社として発足（主として南洋特産コブラの搾油）
- 1936年（昭和11年）、南洋貿易株式会社と合併
- 1939年（昭和14年）、石けんの生産開始
- 1947年（昭和22年）、太陽油脂（株）として創立
- 1948年（昭和23年）、石けんシャンプーの商標を「パックス」に決定
- 1950年（昭和25年）、我が国初のショートニング製造実用化と販売開始
- 1970年（昭和45年）、ペストリー・パイ用シートマーガリン販売開始
- 1971年（昭和46年）、鐘淵化学工業株式会社（現 株式会社カネカ）と業務提携
- 1972年（昭和47年）、ホイップクリーム用シリーズ販売開始
- 1973年（昭和48年）、コーヒークリーム用シリーズ販売開始
- 1982年（昭和57年）、CI（企業理念）導入、社章（日の出マーク）制定
- 1985年（昭和60年）、フィリング・トッピング用「メルファー」シリーズ販売開始  
関係会社「太陽サービス（株）」創立
- 1989年（平成元年）、「パックスナチュロン」石けんシリーズ販売開始
- 2003年（平成15年）、HACCP認証取得
- 2004年（平成16年）、ISO9001:2000（食用加工油脂）取得
- 2006年（平成18年）、「パックスオリー」石けんシリーズ販売開始
- 2008年（平成20年）、「パックスベビー」石けんシリーズ販売開始
- 2009年（平成21年）、エコアクション21 認証・登録
- 2010年（平成22年）、ISO9001:2008（食用加工油脂）更新
- 2011年（平成23年）、RSPO加入
- 2013年（平成25年）、FSSC22000（食用加工油脂）取得  
SC認証（RSPO）取得  
基礎化粧品シリーズ「素肌レシビ」オーガニック・コスメ販売開始
- 2014年（平成26年）、ISO22716（化粧品GMP）取得（石けん・化粧品）
- 2017年（平成29年）、創立70周年を迎える  
ISO9001:2015（食用加工油脂）更新

（○2019年、創業100周年を迎える）



太陽油脂株式会社